

人物じんぶつのようすや気もちに気をつけて読もう

めあて

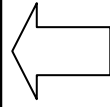
「名前を見てちょうだい」 あまん きみこ作

七色の林でえつちゃんが大男に出会う場めん（五の場めん前はん）の音読のくふうを考えよう。

○大男のようす

- ・木よりも高い大男がどかんと
- ・じろりと見下ろした。
- ・したなめずりをして、じろりじろりと見下ろしながら

○きつねと牛



読み

大男が手にぼうしをのせている挿絵

- ・こわいなあ読み
- ・こまったなあ読み
- ・なきそう読み

- 早くかえらなくっちゃ（ね）。いそがしくて、いそがしくて。
- ・このままここにいたら、自分もたべられちゃうぞ。
  - ・ぼうしなんかどうでもいい。自分のいのちがだいじだ。
  - ・ほんとうはいそがしくないけど、大男がこわいからかえろう。

【7 / 15 時間目 指導略案】 使用するワークシート⑦  
活動のねらい

五の場面前半の会話文の音読の工夫を話し合うことで、きつねや牛の様子や気持ちを想像することができるようにする。

1 本時のめあてを確認する。

- 前時の場面では、えつちゃんの帽子を牛がかぶり、名前のししゅうも変わっていったことを想起させる。

2 七色の林でえつちゃんが大男に出会う場面（五の場面前半）を音読し、音読の工夫について自分で考える。

- 音読の工夫を「く読み」としてワークシートに書かせる。その根拠となる言葉や文にサイドラインを引かせ、そこから分かる様子や気持ちを書き込ませる。

【発問】きつねと牛の「早く帰らなくっちゃ（ね）。いそがしくて、いそがしくて。」はどのように読んだらよいでしょう。

3 音読の工夫について話し合う。

- まず、ペアで音読の工夫やその理由を交流させる。理由は、叙述を基にして述べることができるよう、サイドラインや書き込んだ内容を参考にさせる。

- 次に、学級全体で音読の工夫やその理由を交流させる。その中できつねや牛の行動や様子に目を向けさせていく。

4 話し合ったことを基に、きつねと牛の気持ちを想像する。

- ワークシートの吹き出しに、「早く帰らなくっちゃ（ね）。いそがしくて、いそがしくて。」に続くきつねと牛の言葉を書かせる。

評価 きつねと牛の気持ちを想像して、吹き出しに書いている。 (イ1)

5 本時を振り返り、次時の学習内容を知る。

- 板書を参考にして場面全体を音読させ、ワークシートで自己評価をさせる。
- 次時は、五の場面後半を学習することを知らせる。